

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成20年5月29日(2008.5.29)

【公開番号】特開2007-284517(P2007-284517A)

【公開日】平成19年11月1日(2007.11.1)

【年通号数】公開・登録公報2007-042

【出願番号】特願2006-111878(P2006-111878)

【国際特許分類】

C 0 9 K 5/08 (2006.01)

【F I】

C 0 9 K 5/00 E

【手続補正書】

【提出日】平成20年4月16日(2008.4.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

本発明で用いられる多価イソシアネートは、少なくとも2個以上のイソシアネート基を有する化合物であり、芯材となる蓄熱材に可溶であるのが好ましい。具体例としては、m-フェニレンジイソシアネート、2,4-トリレンジイソシアネート、2,6-トリレンジイソシアネート、トルエン-2,4,6-トリイソシアネート、ジフェニルメタン-4,4'-ジイソシアネート、ナフタレン-1,5-ジイソシアネート、1,6-ヘキサメチレンジイソシアネート、ジシクロヘキシリルメタン-4,4'-ジイソシアネート、ノルボルナンジイソシアネート、イソホロンジイソシアネートなどのイソシアネート単量体が挙げられる。また、ポリメチレンポリフェニルポリイソシアネートなどのイソシアネートオリゴマーまたはイソシアネートポリマーも挙げられる。さらに、ヘキサメチレンジイソシアネートとトリメチロールプロパンの付加物、トリレンジイソシアネートとヘキサントリオールの付加物、ヘキサメチレンジイソシアネートのビュレット付加物、イソシアネート単量体、イソシアネートオリゴマーまたはイソシアネートポリマーのポリオール変性体やカルボジイミド変性体等が挙げられる。これらは組合せて用いることもできる。さらに、芳香族系イソシアネートを用いることは、熱的、あるいは化学的に安定なカプセル皮膜樹脂を得るために寄与するためより好ましい。多価イソシアネートは、蓄熱材に対し1~50質量%の範囲で添加、溶解される。